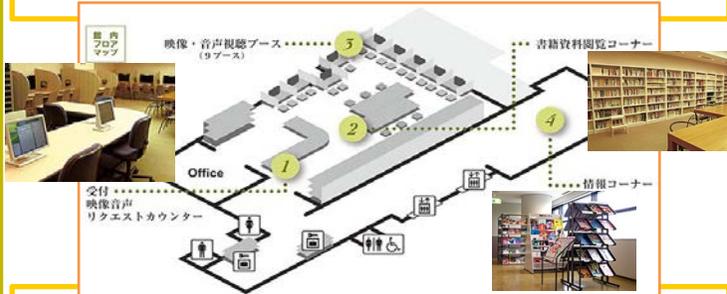


## 大阪府立上方演芸資料館 ワッハ上方

ワッハ上方は、上方演芸に関する資料を収集・保存・活用する文化施設です。  
上方演芸（落語・漫才・講談・浪曲など）と上方喜劇に関する資料を収集・保存・活用し、上方の演芸・喜劇に広く親しんでいただき、学習していただくことを目的としています。

「笑い」を大切にする大阪の文化にふさわしい芸能として発展してきた演芸・喜劇の魅力を伝える全国で唯一の「笑い」の資料館です。これまでに収集してきた資料は約6万点。  
過去に放送されたテレビ・ラジオの3,000本に及ぶ演芸番組の視聴とともに、上方演芸・上方喜劇に関する書籍を閲覧していただけます。



- ワッハ上方 経過
  - ・1996年11月 3フロアで開館（※開館年入場数 約3万人）
  - ・2011年 運営体制を切り替え運営強化、劇場ホール閉鎖
  - ・2013年 規模縮小（展示室閉鎖、展示物は収蔵庫へ）
- 収蔵資料数 総数 62,296点（未登録約5,500点を含む）  
（資料種別）  
舞台関係（実演家衣装、小道具、舞台道具類 他）、  
台本類、ポスター類、書籍、レコード、写真類、  
映像・音声コンテンツ、パンフレット類 等
- 来場者数（参考）  
約28,000人（2010年度）／約163,000人（2011年度）  
※運営主体 大阪府／指定管理者 よしもとクリエイティブ・エージェンシー他  
吉本興業グループは、施設設置物件の賃貸、収蔵物の管理サポート、協力関係者である在阪TV各局様等とのリレーション等設立当初から様々なパートナーシップを執っております。

## 課題と模索

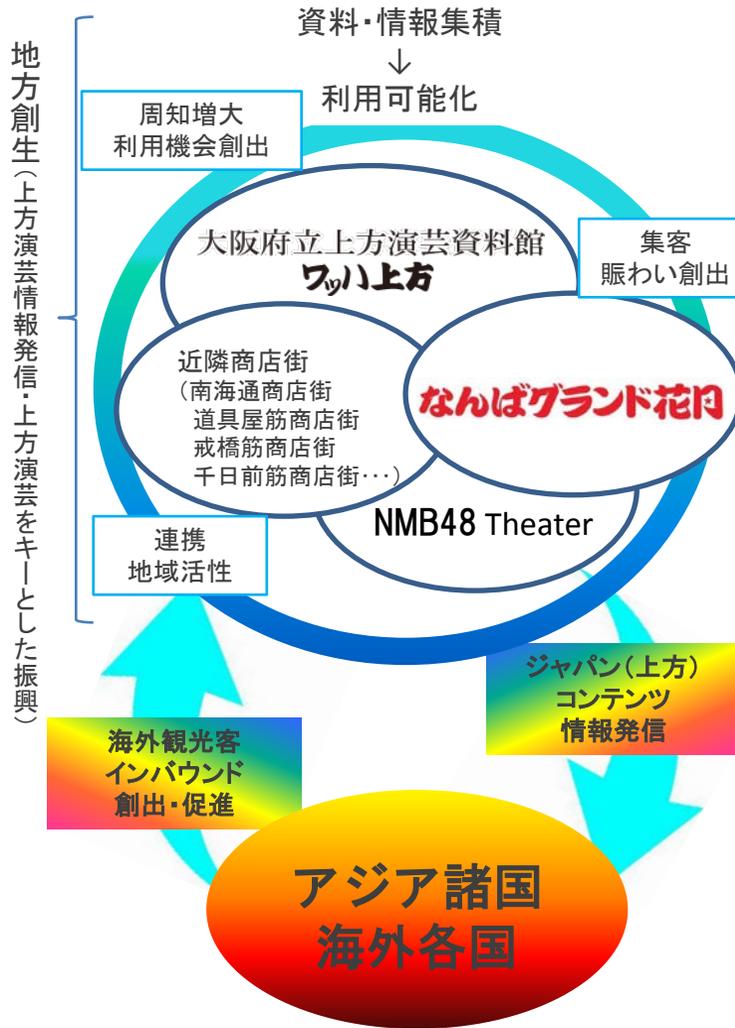
■大阪固有の文化である上方演芸を後世に伝える・そのための資料の整理と活用  
・上方演芸の魅力を伝えられる「資料館」づくり  
（方針 仮案）

- 「上方演芸」の「上方文化」としての価値向上、確立
- アクセスの容易な環境整備
- 「資料」に触れるさまざまな機会の創出
- 関係者、研究機関等の連携（具体化 仮案）



- ・収蔵 約6万点のうち展示されていない資料、収蔵品の活用
- ・デジタル化、アーカイブ化に係る諸論点のクリア
- ・施設を含む活性化、話題づくり、利用促進策 Etc  
（想定される課題等）

## 展望： 地方創生・地域活性と インバウンド創出・情報発信へ



## 参考資料

### <<以前の上方演芸資料館展示室>>



### <<収蔵庫の様子>>



### <<館外展示による資料の活用>>



ウッハ上方 経過と「展示室」の様子(当時) および現在の館外活用事例

平成8年11月の開館当初は、約280坪の常設展示場と約350席のホールやレッスン場を備えた施設でした(建造物の3フロアに展開)。

平成22年にホール(館内劇場)が閉鎖となり、平成24年には常設展示場が取りやめ縮小となりました。

現在は収蔵庫と映像資料と図書が閲覧できる図書館的な施設となっています。

大阪府としては、約60,000点に及ぶ資料の活用方法(府民から寄贈された上方演芸に係る資料 約6,400点を含む)を検討しておりデジタルアーカイブ化も重要な検討事項としています。

現在の収蔵物の活用方法としては、府内のギャラリーを備えた公の施設で「上方演芸資料館の館外展示」として展示を行っております。